

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26—85	中学校	社会科	歴史	1・2・3学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	歴史—732	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き		

1 編修の趣旨及び留意点

▶ “新しい社会を生み出す創造力”をめざして

現在の社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など、様々な変化が急速に進んでおり、中学生が身につけるべき知識や教養も変化しています。私たちは、中学生が優れた日本の伝統をしっかりと継承できるように配慮しつつ、社会の変化をしっかりと踏まえた学習が可能になるよう意を注ぎました。

その上で私たちは今回の教科書の編修にあたって、これからの社会を生きていく中学生に対し、“新しい社会を生み出す創造力”を身につけ、「公共の精神」を尊びながら主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考えました。将来において、社会に対する安心感をいだきながら平和な生活を持続していくためには、現在の社会の成り立ちやしくみを知るだけでなく、新しい社会に合わせたしくみやモデルを創り上げていく能力が必要です。その“創造力”を育成することができるよう、私たちは以下のような点に留意して教科書を編修いたしました。

社会科の編修方針

- ① 社会のしくみや現状など、社会科の基礎・基本がしっかりと身につく教科書に
- ② 社会を形成する人々の様々な工夫や努力が見える教科書に
- ③ 現代社会の諸課題と、その解決に向けての取り組みが見える教科書に
- ④ 人々が作り上げてきた世界や日本の各地にある様々な文化が認識できる教科書に
- ⑤ 様々な考えをもつ人々と共生していくことの大切さを伝える教科書に
- ⑥ 新しい社会の形成に参画していくことの大切さを伝える教科書に

2 編修の基本方針（教育基本法 第2条 への対応）

- 第1号** 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うこと」について、本書では、各時代の特色と日本の大きな歴史の流れを捉え、自ら歴史を調べようとする態度を養うことと捉えました。

- ①本文は、時代の特色や時代の転換点を捉えやすくなるようこころがけ、各事象が大きな流れの中でどのような意味をもつのかについて記述するようにしました。▶ p.52, 76, 96, 116～117 など

例 p.96本文12～14行目 秀吉が導いた近世社会

このようにして秀吉は、刀狩と検地を徹底して行うことによって、武士と百姓の身分を区別する兵農分離を進め、その後の身分制社会の土台をつくりました。

- ②各時代の学習の冒頭に、その時代の一場面を2ページ大のイラストで表現した「タイムトラベル」を配置し、時代の特色が捉えやすく、かつ調べたくなるよう工夫しました。▶ p.20, 21, 30～31, 50～51, 72～73, 92～93, 114～115, 156～157, 202～203, 236～237

- ③通常ページの各見開きでは、学習の導入として生徒の興味・関心をひく視覚的資料と学習でおさえるべき「学習課題」を示し、学習のまとめとして学習内容の確認をする「確認しよう」や知識を整理する言語活動を促す「説明しよう」で、自ら考察できる力を身につけられるようにしました。
- ④各文化史ページの末尾には、学習してきたことを踏まえ、その時代の様相を短文でまとめた「時代をふりかえって」を設置し、時代の特色をつかむヒントとなるようにしました。▶ p.41, 47, 61, 83, 101 など
- ⑤各部の終わりには、学習してきた内容を整理・習得し、かつその知識を活用して各時代の特色を説明する言語活動を行うページ「学習をふりかえろう」を設置しました。▶ p.48~49, 84~85, 136~137, 192~193, 234~235, 262~263

「豊かな情操と道徳心を培う」ことについて、本書では、人々の日常の声や姿に触れることで、歴史を通して人々の生き様を感じ、感性を豊かにすることと捉えました。

- ①日記など、過去の人々の声を伝える資料を積極的に取り上げ、当時の人々の想いに触れられるようにしました。▶ p.107「一揆軍が送ってきた矢文」、233「森脇瑤子と日記の最後のページ」など
- ②人々の日常の営みを生き生きとイラストで表現し、当時の生活感を感じることができる「タイムトラベル」を設置しました。
- ③自然をうやまう心や、素朴さや質素さに美を見いだす心、助け合いや結びつきを大切にする心などが歴史の中でどのように生まれてきたのかについての記述を盛り込み、日本人が古くから育んできた気質や美意識への理解を深められるようにしました。▶ p.47, 76, 82~83 など

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う。

「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことについて、本書では、過去のできごとや人々の生き様を学び、それらについて主体的に考え、判断し、さらに自らの主張を表現する力を養うことと捉えました。

- ①たくましく生き生きとした過去の人々の営みや当時の様子をイラストから発見し、それらの歴史的な意味について考えることができる「タイムトラベル」を設置しました。
- ②資料の分析や調査、「言語活動」を通して、思考・判断・表現の総合的な技能を養い、身に付けることができるよう、「技能をみがく」のコラムや、「トライアル歴史」を設置しました。▶ p.33「系図の見方」、177「現在と過去の立場からとらえる」、10「レポートのまとめ方」、106~107「島原・天草一揆に現れた外国船のなぞ」、154~155「坂本龍馬暗殺のなぞ」

「職業および生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」ことについて、本書では、過去の人々も労働によって生計を立て、そうした人々の労働活動が、社会を創造する原動力となっていたことをしっかりと認識することと捉えました。

- ①さまざまな職業が生まれてきた背景や、人々の生活と密接に結びつく商業や産業の発達についての内容を充実させ、丁寧な記述をこころがけました。▶ p.74~75, 118~119, 120~121 など

例 p.74本文10~13行目 技術の発達とさまざまな職業

生産力の上昇によって、みずから食料をつくらずにすむ人々が増えたこともあり、室町時代には職人の種類が飛躍的に増加しました。16世紀の初めの絵巻物には、鍛冶屋や結桶師など100種類以上もの職人の姿がえがかれています。

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」ことについて、本書では、歴史を多面的・多角的に捉える視点を育み、異なる立場への理解を示すことと捉えました。

- ①異なる考えや対立する考えを両論併記した資料を随所で紹介し、様々な立場から歴史を考えることができるようにしました。▶p.107「当時の記録」、168「沖縄をめぐるさまざまな意見」、177「三酔人経綸問答」、181「日露戦争をめぐるさまざまな意見」、232「それぞれの敗戦」など
- ②女性の社会的立場の変遷や差別された人々など、人権に関わる記述を、本文やコラムで丁寧に紹介しました。▶p.57, 75, 83, 116~117など
- ③地域の視点から各時代の歴史の側面を紹介した「地域史コラム」を設置しました。▶p.53「奥州藤原氏の栄華」、91「世界の銀を支えた石見銀山」、165「横浜港と絹の道」、210「観光都市 別府の誕生」など
また、各所に「歴史を探ろう」を設置し、地域を舞台とした歴史を具体的に深めていくようにしました。▶p.64~65「東アジアに開かれた窓口 博多」、134~135「世界有数の百万都市江戸」など
- ④琉球（沖縄）やアイヌの人々の立場から歴史を捉える視点も重視しました。▶p.70~71, 110~111, 112~113, 168~169, 230~231など

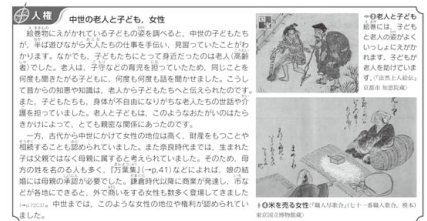
「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、過去の様々な人々の日常生活の営みや努力・工夫を知ることを通して、社会の一員としてより良い社会の創造に参画する態度を育てていくことと捉えました。

- ①これからの社会をつくる担い手としての意識を育むため、社会の形成に関わってきた様々な人々の努力や工夫を行う姿を、「タイムトラベル」のイラストや人物コラム、地域史コラムなどを通して紹介しました。▶p.128「財政改革に成功した米沢藩」、149「大塩平八郎」、159「教育のために使われた米百俵」、207「平塚らいてう」など
- ②未来の社会をつくるために必要な知識を、「羅針盤マーク」がついた「人権」「交流」「平和」の3種類のコラムで紹介しました。▶p.75「中世の老人と子ども、女性」、199「人種差別撤廃への道」、259「エルトゥール号のきずな」、224「幻の東京オリンピック」など

例 p.75「人権」コラム 中世の老人と子ども、女性

老人は、子守などの育児を担っていたため、…昔からの知恵や知識は、老人から子どもたちへと伝えられたのです。また、子どもたちも、身体が不自由になりがちな老人たちの世話や介護を担っていました。

▶(p.75)



第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。

「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、過去における人々と自然との関係のあり方やその変遷を知り、自然との共生をめざす態度を養うことと捉えました。

- ①自然環境や自然災害に対する各時代の人々の考え方や営みを紹介した「自然環境」のコラムを設置しました。▶p.47「自然をうやまった古代の人々」、119「森林伐採と植林」、135「江戸のごみを利用した農業」など

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国の郷土を愛する」ことについて、本書では、過去の様々な人々の努力と工夫の上に伝統や文化が生まれ出されてきたこと、また現在まで守られてきた貴重な伝統や文化を、未来に継承していく大切さを理解することと捉えました。

- ①伝統や文化への教養を深めるため、文化史のページを大幅に充実させ、日本の様々な文化財や芸術について紹介するスペースを設けました。▶p.38「正倉院の宝物が語る大陸との交流」、58「武士の気風にあった力強い文化」、80「はなやかさと素朴さが織りなす芸術」、98「豪華絢爛 富があふれた戦乱の世」、130「江戸っ子を夢中にさせた娯楽と浮世絵」など

▶(p.98~99)



- ②各時代の文化の本文は、政治や国際関係などの社会背景を踏まえて記述するとともに、文化を形成した人々の活動、そして担い手となった人々の努力や工夫をする姿などにも触れ、日本の伝統・文化へのより深い理解を促せるよう、こころがけました。▶ p.38~41, 44~47, 58~61, 80~83, 98~101 など
- ③表見返して「日本各地の伝統行事と祭り」を紹介するとともに、身近な地域の歴史の探求で「仙台七夕まつり」を事例として取り上げ、身近な地域の伝統や文化に気づき、愛情を育むことができました。▶ 巻頭1, p.6~11

「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、過去における他国とのつながりについても理解し、また日本が経験してきた戦争に対して真摯に向き合うとともに、多様な人々が共存する平和な社会を築くための知識と態度を育むことと捉えました。

- ①戦争にいたった経緯やその惨禍について丁寧に記述するとともに、戦争をくり返さないようにする方法や国際平和のあり方を考える具体的な課題を設定しました。また戦後、日本が行ってきた様々な国際的貢献・協力に関する記述を充実させました。▶ p.214~233, 235, 249, 257, 261 など
- ②国家や地域の枠組みを越えて共生にむけて活動した過去の人々の姿を「交流」「平和」のコラムで紹介し、多様な人々が共存する社会を築く上でヒントとなる知識を学べるようにしました。▶ p.183「日本と中国をつないだ人々」、225「ドイツのユダヤ人迫害に抵抗した日本人」など
- ③世界や近隣諸国との関係に対する視野を育むため、世界史や歴史的に日本が関わりを持ってきた東アジアに関する記述を充実させました。とくに領土をめぐる問題については特設ページを設け、現在に至るまでの歴史的経緯を丁寧に紹介しました。▶ p.14~19, 138~145, 194~201, 246~247「日本の領土と近隣諸国」など

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1部 歴史のとらえ方と調べ方	・身近な地域の歴史を調べる学習では、地域の祭りを事例として取り上げ、伝統文化に対する興味・関心を高められるようにしました。 第5号	p.6~11
	・歴史の調べ方についての「技能をみがく」コラムを設け、主体的に歴史を学ぶ上で必要となる技能を身に付けられるようにしました。 第2号	p.8~11
第2部 古代国家の成立と東アジア	・古代の文明や宗教、また古代における日本と東アジアに関する記述を充実させ、世界や近隣諸国との関係に対する視野を育めるようにしました。 第5号	p.14~19, 26~27, 32, 34
	・文化の内容を充実させ、天皇や貴族が生み出したこの時代の文化や伝統に対する教養と愛着を深められるようにしました。 第5号	p.38~41, 44~47
	・部末の「学習をふりかえろう」では、古代における重要な人物を考える作業を通じて、時代の特色をまとめられるようにしました。 第1号	p.48~49
第3部 武家政権の成長と東アジア	・人権に関わる内容を適所で扱い、立場の異なる様々な人々への理解を促せるようにしました。また、琉球とアイヌの人々の歴史や地域史のコラムを各所で扱い、中世の多様性を捉え、多面的・多角的に歴史を捉える視点を育めるようにしました。 第3号	p.53, 60~61, 63, 70~71, 75, 82~83
	・中世の商業や産業の発達について丁寧に記述し、歴史を通して勤労の大切さを理解できるようにしました。 第2号	p.74~75
	・文化の内容を充実させ、武士や僧侶が生み出したこの時代の伝統や文化に対する教養と愛着を深められるようにしました。 第5号	p.58~61, 80~83
	・部末の「学習をふりかえろう」では、中世における重要なできごとを考える作業を通じて、時代の特色をまとめられるようにしました。 第1号	p.84~85
第4部 武家政権の展開と世界の動き	・商業や産業の発達について丁寧に記述し、近世の社会が安定した背景への理解を深め、勤労の大切さを理解できるようにしました。 第2号	p.118~121, 127
	・江戸のリサイクルなど、「自然環境」のコラムを適所で設け、自然との共生を考えるヒントとなるようにしました。 第4号	p.119, 135
	・文化の内容を充実させ、戦国大名や豪商、町人や庶民が生み出したこの時代の伝統や文化に対する教養と愛着を深められるようにしました。 第5号	p.98~101, 124~125, 130~133
	・思考力・判断力・表現力を育む「トライアル歴史」を設置しました。 第2号	p.106~107
	・部末の「学習をふりかえろう」では、江戸時代が長く続いた理由を考える作業を通じて、時代の特色をまとめられるようにしました。 第1号	p.136~137

第5部 近代国家の歩みと 国際社会	• 思考力・判断力・表現力を育む「トライアル歴史」を設置しました。【第2号】	p.154~155, 177
	• 欧米諸国を軸とする世界の動きと、日本の近隣を含むアジアの動きの内容を充実させ、世界や近隣諸国に対する視野を育めるようにしました。【第5号】	p.138~147
	• 人物について記述や紹介を充実させ、日本の近代化や諸問題に取り組んだ人々の努力や工夫を理解できるようにしました。【第3号】	p.147, 149~152, 163, 167, 172, 175
	• 異なる考えや対立する考えを併記した資料を各所で扱い、異なる立場への理解を促し、多面的・多角的な視点を育めるようにしました。【第3号】	p.168, 177, 181, 182
	• 文化に関する内容を充実させ、近代化が生み出したこの時代の伝統や文化に対する教養と愛着を深められるようにしました。【第5号】	p.188~191
第6部 二度の世界大戦と 日本	• 部末の「学習をふりかえろう」では、明治時代に活躍した人物への手紙の作成を通じて、時代の特色をまとめられるようにしました。【第1号】	p.192~193
	• 「技能をみがく」を設置し、思考力・判断力を育めるようにしました。【第2号】	p.229
	• 欧米諸国を軸とする世界の動きと、日本の近隣諸国を含むアジアの動きの内容を充実させ、世界や近隣諸国に対する視野を育めるようにしました。【第5号】	p.194~201, 214, 216~217, 224~225
	• 人権に関する内容、異なる考えや対立する考えを両論併記した資料などを各所で扱い、異なる立場への理解と多面的・多角的な視点を育めるようにしました。【第3号】	p.199, 206~207, 216, 227, 232
	• 戦争に至った経緯やその惨禍を丁寧に記述し、国際平和について考えるための知識と態度を育めるようにしました。【第5号】	p.214~233
第7部 現在に続く日本と 世界	• 文化に関する内容を充実させ、大衆が生み出したこの時代の伝統や文化に対する教養と愛着を深められるようにしました。【第5号】	p.208~211
	• 部末の「学習をふりかえろう」では、戦争が拡大していった原因を探る作業を通じて、時代の特色をまとめられるようにするとともに、平和な国際社会を築いていく態度を育めるようにしました。【第1号】、【第5号】	p.234~235
	• 日本の領土についての特集ページを設置し、日本の領土の歴史的経緯を丁寧に紹介し、領土をめぐる諸問題への理解を深められるようにしました。【第5号】	p.246~247
	• 人権や平和など、現代が抱える諸課題に関するコラムを各所に設け、より良い未来を創造するための知識と態度を育めるようにしました。【第3号】、【第5号】	p.243, 245, 249, 253, 254, 256
	• 文化に関する内容を充実させ、高度経済成長を背景に生み出されたこの時代の文化に対する教養と愛着を深められるようにしました。【第5号】	p.252~255
• 部末の「学習をふりかえろう」では、50年後に向けてのタイムカプセルの作成を通じて、時代の特色をまとめられるようにしました。【第1号】	p.262~263	

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① すべてに生徒に読みやすい表現の工夫

- 見開きにおけるデザインや、グラフ・地図などの資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮しました。極力模様などを入れず、配色のみで色が区別できるようにしたほか、折れ線グラフなどは形をはっきりさせるため、線を太くするなどの工夫もしています。これにより、すべての生徒が読み取りやすい表現になっています。
- 本文などでは、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用しました。

② 環境に優しい素材と堅牢な造本

- 紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用しています。一方で写真がきれいに見えるよう、白くて裏映りが少ないものを使用しています。
- インクには国産米の米ぬかからつくられるライスインクを使用しています。
- 使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりにしています。

③ 家庭での自学自習に配慮した点

- 家庭に持ち帰ることを想定し、紙はできるだけ軽いものを使用しています。
- 通常ページには「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」を設置し、生徒だけでも予習・復習をしやすいようにしました。また、「学習をふりかえろう」も復習をしやすいよう配慮しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26—85	中学校	社会科	歴史	1・2・3 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	歴史—732	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き		

1 編修上特に意を用いた点や特色

人々の営みや文化を通じて時代の特色が理解できる教科書

歴史的分野の目標である「各時代の特色をとらえ、日本の歴史の大きな流れを理解する」学習について効果的に行えるようにし、また、生徒自身が興味・関心を持って取り組めるようにするため、以下のような特色をもった教科書を編修しました。

本書の特色

- ① 「人々の生活」や「文化」を重視し、努力する人々の姿が見える
- ② 東アジアとの関係や地域の動きなど、多面的・多角的な視点を紹介
- ③ 各時代の特色を捉えやすく工夫した見開きや各部の構成
- ④ 学習を通して歴史を捉える技能が身につく

特色 1 「人々の生活」や「文化」を重視し、努力する人々の姿が見える

1 文化を育んだ人々の姿とその社会背景が見える「文化ページ」

従来2ページであった文化史のページを、原則4ページで構成し、歴史の中で培われてきた日本の伝統や文化に対する教養と愛着を深められるようにしました。

① 文化への興味・関心を高められる写真資料

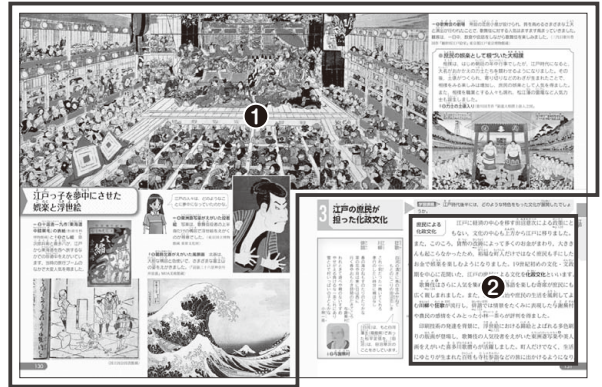
とくに、1ページ目は、各時代を代表する有名な歴史的な文化財や芸術作品を、ページ全面を使って大きく紹介し、日本の伝統や文化に対して興味・関心を持てるよう、配慮しました。

② 文化の担い手や社会背景が見えてくる本文

本文では、各時代の文化について、その担い手となった人々の姿が見えてくる本文記述を心がけ、伝統や文化を身近なものとして捉えられるように配慮しました。

さらに政治や国際関係など、それまでのページで学習してきたことを踏まえつつ、各時代の文化が生まれた社会背景をしっかりと記述し、文化への理解を深められるようにしました。

▼文化ページの例(▶ p.130~131)



▼文化ページの例(▶ p.132~133)



庶民による文化 江戸に経済の中心を移す田沼意次による政策にと
ない、文化の中心も上方から江戸に移りました。
また、このころ、貨幣の改鑄によって多くのお金がまわり、大きき
も起ころなかったため、裕福な町人だけではなく庶民も手にした
お金で娯楽を楽しむようになりました。19世紀初めの文化・文政
期を中心に花開いた、江戸の庶民による文化を**化政文化**といいます。

◀▶ p.131
本文1～6行目

2 各時代の生き生きとした人々の姿を描いた「タイムトラベル」

各時代の生き生きとした人々の姿をイラストにした「タイムトラベル」を設置しました。ビジュアルで迫力あるイラストによって、生徒が興味・関心や課題意識をもって学習に取り組めるようにしました。

また、為政者だけではなく、一般の人々の姿も数多く描き、生徒に身近な生活や文化の目線で歴史を捉えられるようにするとともに、過去の様々な人々の営み、努力や工夫の上に歴史がつくられてきたことを、感じ取れるようにしました。



3 人物の考えが見える「人物」コラムを多数掲載

歴史をより身近に感じられるよう、様々な時代、様々な場面で、日本の歴史に足跡を残した人物を取り上げ、その人物の業績だけではなく、努力する姿や考え方などが見える記述を心がけました。

例えば、p.149「大塩平八郎」では、「正しい教えは実行すべき」とする儒学の教えに基づき、幕府の元役人であったにもかかわらず、生活に苦しむ人々を助けるために、乱を起こす決心をしたことを紹介しています。また、p.40「鑑真」、p.82「雪舟」、p.125「松尾芭蕉」、p.189「正岡子規」、といった文化に関わる人物や、p.16「孔子」や p.17「シャカ」、p.139「ワシントン」などの世界史に関わる人物も積極的に取り上げました。

特色2 東アジアとの関係や地域の動きなど、多面的・多角的な視点を紹介

1 多面的・多角的な視点から記述した本文

歴史を一面的に捉えるのではなく、東アジアとの関係や日本の各地域の動き、また政治史のみならず経済史や文化史の側面からも捉える視点を重視した本文記述を行うことで、歴史を多面的・多角的に理解できるようにしました。例えば、古代の日本の国家形成は、東アジア諸国の動向とも深く関係しながら展開したこと (▶ p.26~27 など)、近世の長期にわたる天下泰平の世は、幕藩体制の確立だけではなく、米の生産量の増加や産業や商業の発達などもその背景にあったこと (▶ p.118~119 など) がわかるようにしました。また、沖縄や北海道における歴史も、通史的に理解できるようにしました。

2 特集「歴史を探ろう」

地域の歴史にも目を向けることができるよう、様々な地域の歴史をテーマとして扱い、本文の内容をさらに深められるようにしました。

例えば、p.64~65「東アジアに開かれた窓口 博多」では、博多が蒙古襲来の舞台となった理由を、当時の国際都市としての役割や地理的な位置など、様々な角度から理解できるようにしました。また、p.246~247「日本の領土と近隣諸国」では、日本の領土の歴史的背景を、資料と本文で丁寧に解説しました。



▲「歴史を探ろう」の例 (▶ p.64~65)

3 「地域史」コラム 通常ページには、通史の学習をしながら地域から歴史を捉える視点を意識できるよう、本文の内容と関連の深い地域の歴史を扱ったコラムを、計 22 箇所、設けました。

4 「羅針盤」マークのコラム 「自然環境」「人権」「交流」「平和」の 4 テーマからなるコラムを、計 34 箇所設けることで、歴史の多様な側面を捉えるとともに、未来の社会をつくるために必要な知識を学べるようにしました。

例えば、p.83「庭園づくりで活躍した河原者」では、河原者は清める力をもつ異質な存在として差別を受けた一方で、優れた文化を生み出したことを記述し、人権について考えられるようにしました。

特色3 各時代の特色を捉えやすく工夫した見開きや各部の構成

1 基礎・基本となる事項と歴史の展開を理解できる通常ページ

① 見開きの構成

判型を AB 判にして紙面をワイドにすることで、大きな写真を掲載し、歴史への興味・関心を促すようにしています。地図や年表なども大きく見やすく提示するとともに、各見開きの紙面の使い方を整理しました。



▲見開き構成の例 (p.126～127)

- ① 導入 …………… 生徒の興味・関心を引き出したり、疑問をもたせたりするための写真や資料をおいています。
- ② 学習課題 …… これからの学習でおさえるべき課題を示しています。
- ③ 解説 …………… 本文をより理解するための用語の解説を、各所においています。
- ④ 資料活用 …… 歴史的な見方・考え方を育成するための作業や注目すべき点を提示しています。
- ⑤ 確認しよう …… 基礎的・基本的な知識を確認を行います (習得)。
- ⑥ 説明しよう …… 思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動を行います (活用)。

② 本文記述

各時代の基礎・基本となる事柄をしっかりと記述しつつ、さらに各時代の特色を大きな視点で捉えられる説明文を充実させています。

例えば、p.52の本文では、中世に入ると社会全体で土地が財産として重視され、土地の権利や境界などをめぐって争いが起こるようになったこと、そして、それにより、武装してみずからの力で紛争を解決しようとする中世の社会が形成されていったことが分かる記述となっています。

有力者の領地とされていきました。こうして荘園・公領ともに、地方の有力者による領地支配が強まってきました。

このような動きを背景にして、社会全体で土地が財産として重視されるようになり、土地にかけられる年貢などの税が生まれました。そのため、人々は必死に領地を獲得するようになりました。土地の権利や境界などをめぐって争いがしきりに起こり、人々は自分の力で土地を守らなければならなくなりました。こうして土地の私有を基礎とし、武装してみずからの力で紛争を解決しようとする中世の社会が形成されていきました。そして大寺院も武装した僧侶(僧兵)

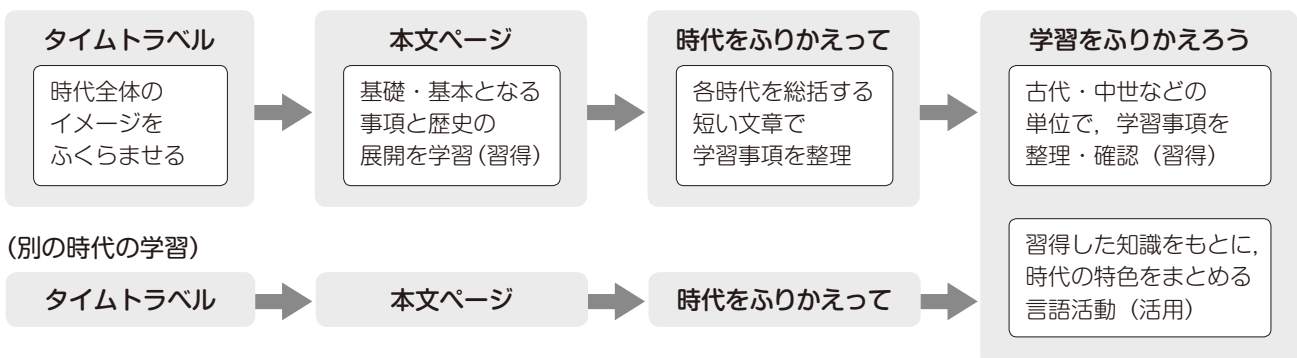
▲本文の例 (p.52)

③ 本文をより理解するための「解説」

歴史を学習する上で大切な用語をわかりやすく説明した「解説」を、計 54 箇所設けています。例えば、p.138「近代の政治体制」のように、文章の解説だけでは理解しづらい用語は、図を用いたり写真を添えたりして、視覚的に理解が深まるように工夫しています。

2 時代を大観し、時代の特色が捉えやすい基本構成

学習事項の習得を着実に図るとともに、歴史的分野の大きな目標の一つである「時代を大観し、時代の特色を捉える」学習を効果的に行うため、各部 (各時代) の構成と展開に、以下のような工夫を行いました。



例えば、鎌倉時代と室町時代の学習をそれぞれ上記の流れで行った上で、中世という時代を「学習をふりかえろ」でまとめる学習を行う構成にしています。

① 時代全体のイメージをふくらませる「タイムトラベル」

「タイムトラベル」では、とくにその時代の特色が出ている場面を探し出す作業である「次の場面を探してみよう」を冒頭に設け、各時代の特色の把握や課題意識を育む際のヒントとなるようにしました。



また、通常ページの本文や資料には、タイムトラベルの場面と関連する箇所参照ページの印を付けています。授業を進めるなかで、学習事項を具体的なイメージとともに定着させることができます。

▼▶ p.22 本文9～11行目

② このころの土器は、表面に縄目の文様がつけられていることが多いので縄文土器といえます。食生活の充実で人口も増え、地面に穴を掘り屋根をつけたたて穴住居に定住するようにもなりました。

② 各時代を総括する「時代をふりかえって」

文化史ページの終わりに、その時代を短い文章でまとめたコーナーを設置しました。

例えば、p.61「鎌倉時代をふりかえって」では、簡素、力強いという鎌倉文化の特色、それを育んだ武士の政治や社会の展開について、端的にとらえられるようにしています。

③ 時代の特色をまとめる「学習をふりかえろう」

各部の終わりには「学習をふりかえろう」を設け、生徒自身が「時代を大観し表現する活動」(言語活動)をしつかりと達成できるようにしました。

「確認しよう」では、学習してきた知識の習得をはかり、「説明しよう」では、習得した知識を活用した上で、時代の特色を話し合い、それを表現する活動を行えるようにしました。

また、「タイムトラベルをもう一度ながめよう」では、学習事項を踏まえて再度タイムトラベルをながめ直す作業を設けており、「時代を大観」する学習をより効果的に行えるようにしました。



コーナー	役割
① 確認しよう	学習事項を「年表」と「地図」で整理・確認し、知識を習得する。
② 説明しよう	習得した知識を活用しながら時代を大観し、特色をまとめる言語活動を行う。 ・資料から時代の変化を説明する。 ・学習を踏まえて時代の特色を説明する。
③ タイムトラベルをもう一度ながめよう!	その時代のポイントとなる場面を、「タイムトラベル」のイラストで再確認する。

◀ 「学習をふりかえろう」の例(▶ p.84～85)

特色4 学習を通して歴史を捉える技能が身につく

1 コラム「技能をみがく」

歴史学習の基礎的・基本的な技能を習得することができる「技能をみがく」を、計11箇所、設置しています。資料の見方をはじめ、歴史の考え方などの思考・判断技能、そして自身の考えをまとめて伝える表現技能までをトータルで身に付けられるようにしました。

2 特集「トライアル歴史」

具体的な事例を題材として、歴史を論理的に考えて深めていく思考力・判断力・表現力の育成と習得をめざしたページです。歴史的事象のなぞを探りながら、興味・関心をもって主体的に学習に取り組めるようにしました。

例えば、p.154～155「坂本龍馬暗殺のなぞ」では、龍馬の暗殺を指示した人物・組織は?という問いについて、資料をもとに仮説を立て、真相に迫っていくことで、演繹的な思考力を養うことができます。

3 異なる立場を紹介した資料

同じ事柄に対する異なる考えや対立する考えを紹介した資料を数多く掲載しています。物事がもつ多面性に気づき、それぞれの立場から多角的に物事を考え判断する力を養えるようにしました。

2 対照表

単元構成	箇所	学習指導 要領の内容	構成・内容の特色	担当 時間数
第1部 歴史のとらえ方と調べ方 1章 歴史の流れと時代区分 2章 歴史の調べ方 まとめ・発表の仕方	p.1 11	(1) ア, イ	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学んだ歴史上の人物やできごとのイラストを用いて、興味関心をもって時代の移り変わりや時代区分の学習ができるようにしました。 ・身近な地域の調べ方では、実際に調査をしている生徒の写真を事例として掲載し、追体験しながら学習できるようにしました。また、調べ方、まとめ・発表の仕方に関する技能をコラムで明示し、2部以降の学習でも活用できるようにしました。 	12 2 10
(各時代の始めにおかれる) タイムトラベル	p.20, 21, 30, 50, 72, 92, 114, 156, 202, 236	(1) ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の始めには「タイムトラベル」を設置し、時代の特色をつかみやすくするとともに、課題意識を育成しやすくしました。 	15 9
(各部の終わりにおかれる) 学習をふりかえろう	p.48, 84, 136, 192, 234, 262		<ul style="list-style-type: none"> ・各部の終わりには「学習をふりかえろう」を設置し、学習した内容を確認し、かつ時代の特色について話し合う作業を行い、それらを踏まえてその時代を大観し表現する作業を行うようにしました。 	6
第2部 古代国家の成立と東アジア 1章 人類の登場から文明の発生へ 2章 東アジアの中の倭（日本） 3章 中国にならった国家づくり 4章 展開する天皇・貴族の政治	p.12 49	(2) ア, イ, ウ, エ	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の古代文明については、はじめにおもな文明を紹介し、その後の文明の展開と宗教のおこりはアジアとヨーロッパに分けて紹介しました。 ・天平文化や国風文化のページでは、文化を生み出した担い手の考えが見えるようにするとともに、各時代の特色を文化を通して捉えられるようにしました。 ・日本古代の信仰や神話については、古墳の特集ページや神話に関するコラムにおいて、「日本書紀」や「古事記」の内容と結びつけて紹介しました。 	13 4 3 4 2
第3部 武家政権の成長と東アジア 1章 武士の世の始まり 2章 武家政権の内と外 3章 人々の結びつきが強まる社会	p.50 85	(3) ア, イ	<ul style="list-style-type: none"> ・民衆に関する記述を第3章に集め、産業の発達から自治に至るまでの流れをおさえやすくしました。 ・鎌倉文化や室町文化のページでは、禅宗が文化に与えた影響を明確にするとともに、各時代の特色を文化を通して捉えられるようにしました。 	12 4 4 4
第4部 武家政権の展開と世界の動き 1章 大航海によって結びつく世界 2章 戦乱から全国統一へ 3章 武士による支配の完成 4章 天下泰平の世の中 5章 社会の変化と幕府の対策	p.86 137	(4) ア, イ, ウ, エ	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した社会を支えたさまざまなしくみがなぜ生み出されたのかについて、丁寧に紹介しました。とくに、近世中後期では経済面にも光を当てて、近代への継続性についても捉えられるようにしました。 ・安土桃山文化や元禄文化、化政文化のページでは、担い手が変化する背景を記述するとともに、各時代の特色を文化を通して捉えられるようにしました。 	17 3 3 4 4 3
第5部 近代国家の歩みと国際社会 1章 欧米諸国における「近代化」 2章 開国と幕府の終わり 3章 新しい価値観の下で 4章 近代国家への歩み 5章 帝国主義と日本 6章 アジアの強国の光と影	p.138 193	(5) ア, イ, ウ, エ	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末期の藩政改革や外国船の接近から近代の歴史を展開し、近代化の基盤がすでに近世末期にはできあがっていたことを理解できるようにしました。 ・日本の領土の歴史的背景がしっかりと理解できるよう、明治初期の国境画定の記述を充実させました。 ・明治時代の文化のページでは、学校教育が与えた影響を明確にすると共に、各時代の特色を文化を通して捉えられるようにしました。 	22 4 4 3 4 4 3
第6部 二度の世界大戦と日本 1章 第一次世界大戦と民族独立の動き 2章 高まるデモクラシーの意識 3章 軍国主義と日本の行方 4章 アジアと太平洋に広がる戦線	p.194 235	(5) オ, カ	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の構成と流れを、世界史→日本史とすることで、歴史の流れと関連性をつかみやすくしました。 ・異なる立場を示した資料を適所に掲載し、多面的・多角的な思考を養えるようにしました。 ・大正～昭和初期の文化のページでは、大衆文化が広まった背景を明確にするとともに、時代の特色を、文化を通して捉えられるようにしました。 	15 4 3 4 4
第7部 現在に続く日本と世界 1章 敗戦から立ち直る日本 2章 世界の多極化と日本の成長 3章 これからの日本と世界	p.236 263	(6) ア, イ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の領土についての特設ページを設けました。 ・戦後復興期や高度経済成長期の文化のページでは改めてその特徴を捉え直すとともに、時代の特色を、文化を通して捉えられるようにしました。 ・公民学習へとスムーズにつながられるよう、現在につながる課題をコラムで紹介し、また冷戦終結後から現在までの記述を充実させました。 	10 3 4 3